

## 2025年6月実績概要（メモ）

(2025. 7. 17)

定修による能力のボトム時期にあたり、基礎原料のエチレンはじめ各誘導品の減産をもたらす。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 358,300トン

前月比 ▲14.0% (▲58,400トン)

前年同月比 ▲0.0% (▲100トン)

| 生産増減に係る諸要因 | <前月比>  | <前年同月比> |
|------------|--------|---------|
| 日数増減       | ▲3.2%  | —       |
| 定修要因等      | ▲9.2%  | +4.6%   |
| 能力増減       | —      | —       |
| 稼働率変動      | ▲1.6%  | ▲4.6%   |
| 生産増減率      | ▲14.0% | ▲0.0%   |

稼働プラントの実質稼働率試算：前月76.1%\* → 当月75.0% ← 前年同月77.8%

定修プラント：前月1社1プラント → 当月2社2プラント ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数減とともに定修規模差等から、LDPE、HDPE、PP、PS、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、トルエン、キシレンなどの17品目全てがマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から、HDPE、PS、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、AN、トルエン、キシレンなどの9品目がマイナス。LDPE、PP、SBRなどの8品目は定修規模差等からプラスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数減に加えて、定修規模の拡大等もあり、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

前年比は、LDPE、PPは定修規模差等からプラス。HDPE、PSは定修規模差や稼働率要因からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費のマインドは、暮らし向きや耐久消費財の買い替え時期の面から、前月に対して上向きの様子が見られるが、同時に物価上昇が消費の足枷となっている。国内の生産活動は、6月の予測では情報通信機械、石油製品などの業種で生産の増加が見込まれているが、生産活動のトレンドは前月と比べて幾分かの低下が見られている。

汎用樹脂の出荷は、連休のあった前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PSともに前月比はプラスとなったが、前年比は、4樹脂ともに前年を下回ることとなった。

分野別の出荷状況としては、フィルム等の包材関係は、前年比でPSをはじめとし、LDPE、HDPE、PPともにマイナスとなった。包材以外の出荷分野では、前年比でLDPEの加工紙分野、HDPEのパイプ分野等の限られた分野のみが前年を上回るにとどまった。

ハ) 輸出

輸出環境は、米中の関税交渉の行方や中東紛争に伴う原油市況の上下動から、先行きを見極めようとする動きとなった。汎用樹脂の輸出は、前月比は、LDPE、HDPE、PPがプラスとなったが、前年比では、LDPE、PP、PSがマイナスとなり、数量面でも低調となっている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PSで減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PP、PSで上昇した。在庫水準としては、LDPEは高め、HDPEは極めて高め、PP、PSは幾分か高めとなっている。

|      | 前月対比増減量<br>(単位:トン) | 季節調整済在庫率 (単位:ヶ月) |     |
|------|--------------------|------------------|-----|
|      |                    | 5月末              | 6月末 |
| LDPE | ▲14,800            | 3.6              | 3.8 |
| HDPE | ▲24,300            | 4.4              | 4.5 |
| P P  | ▲36,500            | 3.1              | 3.4 |
| P S  | ▲5,800             | 2.1              | 2.2 |

前月からの修正を\*で付記

以上